

Comparison of Visual Acuity and Automated Perimetry Findings in Patients With Neuromyelitis Optica or Multiple Sclerosis After Single or Multiple Attacks of Optic Neuritis

Danilo B. Fernandes, MD, Renata de Iracema P. Ramos, MD, Carolina Falcochio, MD, Samira Apóstolos-Pereira, MD, Dagoberto Callegaro, MD, PhD, Mário Luiz Ribeiro Monteiro, MD, PhD
Journal of Neuro-Ophthalmology 2012;32:102–106

視神経脊髄炎あるいは多発性硬化症患者の視神経炎経過後の視力および自動視野計の比較

目的：視神経脊髄炎(NMO)患者の臨床的特徴を調査吟味し、視機能の転帰について多発性硬化症(MS)の視神経炎(ON)患者の転帰と比較した。

方法：NMO患者33人と30人のMS患者に自動視野計を含めた神経眼科的検査を施行した。両群の視機能について全体的に比較するとともに単発性ON眼を取り出し比較した。

結果：視機能および視野の平均偏差(MD)はNMO患者眼に有意に悪かった。ON単発例の視野はMS患者35眼中17眼正常だったが、NMO患者36眼では2名のみ正常視野だった($P < 0.001$)。統計学的解析からMD値が -20.0dB 以下だとON単発後のNMOであるオッズ比は6.0 (信頼区間 [CI]: 1.6-21.9)、一方、MDが -3.0dB 以上だとMSであるオッズ比は16.0だった。

結論：視機能の転帰はMSに比べNMOは有意に悪かった。ON単発後、自動視野計で高度な視野障害が残っている場合はNMOが疑われ、視野が完全に回復すればNMOの可能性は低いと考えられた。